

エシカル消費を推進する「エシかるた」を用いた 「総合的な学習の時間」での授業

三宅 元子・白井 靖敏

The Classes in *Hours for Comprehensive Studies* using "Ethikaruta" to Promote Ethical Consumption

Motoko MIYAKE and Yasutoshi SHIRAI

抄 録

本研究は、N女子大学の学生が2019年9月に中学校の「総合的な学習の時間」で実践したエシカル消費に関する授業を継続して2020年12月にも行い、中学生が身に付いた力について検討したものである。学生は、アクティブラーニングの手法として、エシカル消費を推進する目的で自作した「エシかるた」を用い、「一人ひとりができるエシカル消費行動について考えてみよう」を題材とした授業設計を行い実践した。結果、中学生が授業後に記入した振り返りシートとワークシートから、2020年度の授業は2019年度よりもわかりやすい授業であったと評価が高く、自由記述の記入人数も多く内容も具体的であり、深い学習ができていたことが明らかとなった。

キーワード：エシカル消費、総合的な学習の時間、中学生、大学生

1. 目 的

「総合的な学習の時間」の設置は、中学校では1998年における学習指導要領の改訂からである。この学習の時間の目標は、(1) 自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること、(2) 学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすることである。その後の2003年に学習指導要領の一部が改訂され(3)各教科・科目及び特別活動で身に付けた知識や技能等を相互に関連付け、学習や生活において生かし、それらが総合的に働くようにすることが加えられた。

ここで注目すべきは、「各教科・科目及び特別活動で身に付けた知識や技能等を相互に関連付け」として、これまで児童・生徒が学んできた教科等の学習成果を問題や課題の解決に向け、総合的な活用とすることが示されたことである。そして、2007年の改訂により、「横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考え

ることができるようにする。」と示された。さらに、2017年の改訂では、(1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解できるようにする。(2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。

(3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養うこととして、特に「探究」が重要視された¹⁾⁻⁴⁾。

これらをふまえて、本研究で行った2019年度の「総合的な学習の時間」の授業内容には、技術・家庭科 家庭分野の「D身近な消費生活と環境」に関する知識を活かし、教科で学習した内容が統合化できるように組み入れた⁵⁾。この実践では、2年生を対象として「フェアトレードチョコレートからエシカル消費について考える」を題材とし、学生自身の主体的な学びに関する課題を探った。エシカル消費は、現代的な諸課題、特に2015年に国連で採択された持続可能な開発目標 (SDGs) のゴール12「つくる責任 つかう責任」の一つであり、消費者基本計画 (2015年3月閣議決定) において、「地域の活性化や雇用なども含む、人や社会・環境に配慮した消費行動」と定義されている。現代は世界中から様々な商品・サービスが選択できるようになっており、モノのライフサイクルを通じた社会や環境に対する負担や影響が消費者から見えにくくなっている。エシカル消費とは、このライフサイクルを可視化し、社会や環境に配慮した商品・サービスを積極的に選択することで、消費者それぞれが社会的課題や環境問題の解決を考慮した消費活動を行うことであり、「総合的な学習の時間」で扱う題材としてふさわしいと考えたからである。

一方、2020年度は、対象者を2019年度の授業受講者と同一の生徒 (3年生) とし、題材名を「一人ひとりができるエシカル消費行動について考えてみよう」と決め、中学生の探究的な学びについて検討することとした。

2. 方 法

(1) 「総合的な学習の時間」での授業設計

学生が、中学校の「総合的な学習の時間」における授業を設計し、実際に授業を行い、生徒自身の主体的な学びについての課題を探ることとした。

2019年度の授業は、教員から「実践的指導力をつける家庭科教育法」⁶⁾ (多々納、伊藤 2018) に記載されている学習指導案とプレゼンテーション資料をもとに事前説明を受けた後、学生が具体的な授業をデザインする方法をとった。ここでの反省点は、ベースとなる学習指導案や説明に用いた補完教材 (プレゼンテーション資料、自作のパフレット、実物見本 (カカオ豆、カカオニブ等)) が既存資料であったことから、学生自身が教材・教具を作成することが少なく、指導内容よりもむしろ指導方法に重点をおき授業設計をしたことである。そのため、中学生は実物を使ってカカオ豆の生産からチョコレートが作られる過程までは理解できたものの、流通のしくみや児童労働との関わりについては十分理解できておらず、「総合的な学習の時間」のねらいに即した結果が得られるまでには至らなかった。

こうした課題を解決するため、2020年度の教材は、実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする、探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、積極的に社会に参画しようとする態度を

養うこととし、オリジナル教材を作成することとした。

エシカル消費を推進する教材には一般的にすごろくなどのサイコロを用いたものや、クイズ、かるたなどが挙げられるが、実践する学生からは、かるたがイラストと言葉の組み合わせにより、中学生がより理解しやすいのではないかと意見が出された。また、かるたは札を取ることで見て読んで学び、読み札を聞いて学ぶこともできる。さらに、手札の枚数を競い合うという楽しさがあるため、理解が深まると同時に今後の行動につながるのではないかと考え、エシカル消費行動を持続的に行うことをとりあげた内容の「かるた」(以下「エシかるた」)を作成した。

「エシかるた」の具体的な内容を考えるにあたり、(1)エシカル消費の配慮の対象である「人」「社会」「環境」「生物」「地域」の5つの尺度から調べる。(2)コロナ禍の状況を踏まえたエシカル消費行動についても考える。(3)中学生にも理解しやすいテーマとことばを用いることに注視した。

まず、「あ」から「を」について全45枚の「エシかるた」の内容と文章を考え、根拠となる社会状況等をふまえた「エシかるた」の読み札を決めた。例えば「キャッシュレス感染防止で増加する」の読み札では、アメリカン・エキスプレス・インターナショナルInc. が、全国の一般生活者およびレジ業務従事者を対象として実施したキャッシュレス決済についての意識調査を取り上げた。このなかで、新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、専用リーダーにクレジットカードをタッチするだけで支払いが完了する「タッチ決済」の需要がこれまで以上に高まっている事例を用い、根拠となる背景も考慮した。新型コロナウイルスの感染拡大は、私たちの生活にさまざまな変化をもたらし、これからの新しい生活様式では決済方法のセキュリティ面の安全性に加えて衛生面での安全性も強く求められるようになるからである。

次に、学習指導案(資料1)及びワークシート(資料2)の作成は、実践する中学校の「総合的な学習の時間」担当教員から指導を受け作成した。学習活動の流れは、概ね以下の通りである。

- ① エシカル消費の意味、配慮の対象、フェアトレードについてパンフレットを用いて復習し、本時の学習目標を確認する。
- ② エシカル消費の目的は「持続可能な生産・消費形態の確保」に通じる活動であることを知る。エシカル消費の範囲(環境、社会、人、地域、生物)、私たちができるエシカル消費行動について知る。
- ③ 「エシかるた」を用いたかるた取りを行いエシカル消費行動について理解する。
- ④ 一人ひとりが実践できる(したい)消費行動について発表する。
- ⑤ ワークシートに記入してまとめる。

特に④、⑤ではかるた取りをした後、実践できる(したい)と思った内容の取り札を1枚選び、その札を選んだ理由や今後の課題について発表し、考えを深める。

(2) 授業実践

実施期日は2020年12月22日、5限目(45分間)の「総合的な学習の時間」であり、対象は名古屋市立日中学校の3年生7クラス234人(男子131人、女子103人)である。実施者はN女子大学の3年生4人、4年生10人の計14人であり、授業は各クラス2人1組で行った。

各クラスの授業者は学習指導案に則って実践した(図1)。導入(5分)には、パンフレットを使ってエシカル消費とはなにか、その目的等を説明した。展開(30分)では、4人で1班

をつくりグループごとに「エシかるた」を用いたかるた取りを行った。開始に当たり、大学生は、生徒に対して「密にならないようにすること、大きな声を出さないようにすること」の注意喚起を行った。その後、大学生が読み札を2回読み、生徒は注意深く聞きながらかるたを取った。最後に、各生徒が気に入ったエシかるたの取り札をワークシートに記入し、自分たちができるエシカル消費行動を考え発表するまとめ(10分)とした。



①導入
(エシカル消費の説明)



②展開(エシかるた)



③展開
(かるたの確認と説明)



④まとめ(振り返り)

(3) 効果検証

授業の効果を検証するため、授業を受けた中学生234人(男子131人、女子103人)を調査対象として、授業実践後に振り返りのアンケート調査を行った。また、授業中のワークシートも用いて分析することとした。

アンケート調査の項目は、自己評価と授業に関する評価であり、全10項目である。内容は、自己評価項目として資質・能力を測定する5項目を、①概念の形成、②情報の整理・分析、③課題の設定・解決、④主体的な取り組み、⑤協働的な学習とした。授業に関する評価項目は、考えるための技法を測定する5項目とし、⑥説明の内容、⑦資料の内容、⑧教材の内容、⑨活動・思考の時間、⑩学習意欲の向上とした。授業中に記入するワークシートは、①最も気になった(気に入った)「エシかるた」の札を1枚書き写して下さい、②なぜその札を選びましたか、理由を書いてください、③選んだ札に関連して、身近でできそうなことは何かありますか、書いて下さい、④エシカル消費をこれから多くの人に広めていくために効果的だと思うことはどんなことがありますか、提案してみてください、⑤授業についての感想や気づいたことを自由に書いてください、の5項目とした。但し④については発展課題とし、任意の記述とした。分析は、設問が一つずつ独立していることから、設問ごとの有効回答数で統計処理を行った。なお、使用したソフトはjs-STARである。

3. 結果

まず、授業を受けた中学生の自己評価を表1に示す。生徒の資質・能力を示す指標として①～⑤の項目について質問した結果、全項目において、「とても思う」「思う」をあわせた高評価が95%以上を占めた。特に、概念の形成を測定する知識及び技能の項目「エシカル消費について理解することができた」では、ほぼ100%の生徒が理解できたと高評価の自己評価をしている。また、回答の高低によるフィッシャーの正確確率検定を行った結果、いずれの項目も性別による有意な差は見られず、この学習は性別によらず理解できていることがわかった。項目間の回答傾向も有意な差は見られず、①概念の形成、②情報の整理・分析、③課題の設定・解決、④

主体的な取り組み、⑤協働的な学習は概ね達成できたと自己評価していることがわかった。

次に、授業に関する評価（表2）では、⑥説明の内容、⑦資料の内容、⑧教材の内容、⑨活動・思考の時間、⑩学習意欲のいずれの項目も、高評価が90%以上であり非常に高かった。特に、⑧教材の内容の項目「教材『エシかるた』が分かりやすかった。」は、99%と最も高く、自作の「エシかるた」は学びを促進する教材として適していたといえる。さらに、2019年度と比較する（図2）と、全ての項目において2020年度が上昇している。特に、「教材『エシかるた』が分かりやすかった。」では、2019年度の映像資料に比べて約10ポイント上昇しており、実社会や実生活の中から問いを見いだすことのできる教材が生徒にとって分かりやすかったものと考えられる。

次に、生徒が授業中に記入したワークシートの分析結果を述べる。生徒が最も気に入った「エシかるた」の札（図3）は、「(え) エコバック忘れず買い物へ」で19人（8.2%）と最も多く、次いで「(つ) 伝えよう余剰食糧600万トン」が16人（6.9%）、「(み) 密を避け無駄な外出控えよう」14人（6.0%）の順であった。生徒が選んだ上位の読み札は、いずれも授業やメディア等で取り上げられている身近でリアルタイムの問題や、なじみの深いテーマであることがわかる。表

表1 生徒の性別による自己評価

番号	項目	選択肢	男子		女子		合計		高低
			人数	%	人数	%	人数	%	
1	【知識及び技能】 エシカル消費について、 理解することができた。	とても思う	88	67.2%	67	65.0%	155	66.2%	98.7%
		思う	40	30.5%	36	35.0%	76	32.5%	
		あまり思わない	2	1.5%	0	0.0%	2	0.9%	1.3%
		思わない	1	0.8%	0	0.0%	1	0.4%	
		計	131	100.0%	103	100.0%	234	100.0%	100.0%
2	【知識及び技能】 自分たちの消費行動が与える 影響について、説明や資料から つかむことができた。	とても思う	88	67.2%	69	67.0%	157	67.1%	97.9%
		思う	39	29.8%	33	32.0%	72	30.8%	
		あまり思わない	3	2.3%	1	1.0%	4	1.7%	2.1%
		思わない	1	0.8%	0	0.0%	1	0.4%	
		計	131	100.0%	103	100.0%	234	100.0%	100.0%
3	【思考力、判断力、表現力等】 教材「エシかるた」を使って、 様々なエシカル消費について 気づくことができた。	とても思う	98	74.8%	86	83.5%	184	78.6%	97.9%
		思う	28	21.4%	17	16.5%	45	19.2%	
		あまり思わない	4	3.1%	0	0.0%	4	1.7%	2.1%
		思わない	1	0.8%	0	0.0%	1	0.4%	
		計	131	100.0%	103	100.0%	234	100.0%	100.0%
4	【思考力、判断力、表現力等】 持続可能な社会の実現のため に実践できるエシカル消費を 考えることができた。	とても思う	85	64.9%	67	65.0%	152	65.0%	97.9%
		思う	41	31.3%	36	35.0%	77	32.9%	
		あまり思わない	3	2.3%	0	0.0%	3	1.3%	2.1%
		思わない	2	1.5%	0	0.0%	2	0.9%	
		計	131	100.0%	103	100.0%	234	100.0%	100.0%
5	【学びに向かう力等】 友人の発表等を通じて、 共通の課題や有効な対策を 共有することができた。	とても思う	74	56.5%	48	46.6%	122	52.1%	96.2%
		思う	51	38.9%	52	50.5%	103	44.0%	
		あまり思わない	5	3.8%	2	1.9%	7	3.0%	3.8%
		思わない	1	0.8%	1	1.0%	2	0.9%	
		計	131	100.0%	103	100.0%	234	100.0%	100.0%

表2 性別による生徒の授業に関する評価

番号	項目	選択肢	男子		女子		合計		高低
			人数	%	人数	%	人数	%	
6	講師の先生の説明が分かりやすかった。	とても思う	99	75.6%	81	78.6%	180	76.9%	98.3%
		思う	28	21.4%	22	21.4%	50	21.4%	
		あまり思わない	3	2.3%	0	0.0%	3	1.3%	1.7%
		思わない	1	0.8%	0	0.0%	1	0.4%	
		計	131	100.0%	103	100.0%	234	100.0%	
7	印刷物の資料が分かりやすかった。	とても思う	89	67.9%	76	74.5%	165	70.8%	97.9%
		思う	38	29.0%	25	24.5%	63	27.0%	
		あまり思わない	3	2.3%	1	1.0%	4	1.7%	2.1%
		思わない	1	0.8%	0	0.0%	1	0.4%	
		計	131	100.0%	102	100.0%	233	100.0%	
8	教材「エンかるた」が分かりやすかった。	とても思う	102	77.9%	88	85.4%	190	81.2%	99.1%
		思う	27	20.6%	15	14.6%	42	17.9%	
		あまり思わない	1	0.8%	0	0.0%	1	0.4%	0.9%
		思わない	1	0.8%	0	0.0%	1	0.4%	
		計	131	100.0%	103	100.0%	234	100.0%	
9	活動したり、考えたりする時間が十分にあった。	とても思う	80	61.1%	63	61.2%	143	61.1%	93.2%
		思う	39	29.8%	36	35.0%	75	32.1%	
		あまり思わない	10	7.6%	4	3.9%	14	6.0%	6.8%
		思わない	2	1.5%	0	0.0%	2	0.9%	
		計	131	100.0%	103	100.0%	234	100.0%	
10	講師の先生の話をもっと聞きたいと思った。	とても思う	83	63.4%	65	63.1%	148	63.2%	94.4%
		思う	38	29.0%	35	34.0%	73	31.2%	
		あまり思わない	7	5.3%	2	1.9%	9	3.8%	5.6%
		思わない	3	2.3%	1	1.0%	4	1.7%	
		計	131	100.0%	103	100.0%	234	100.0%	

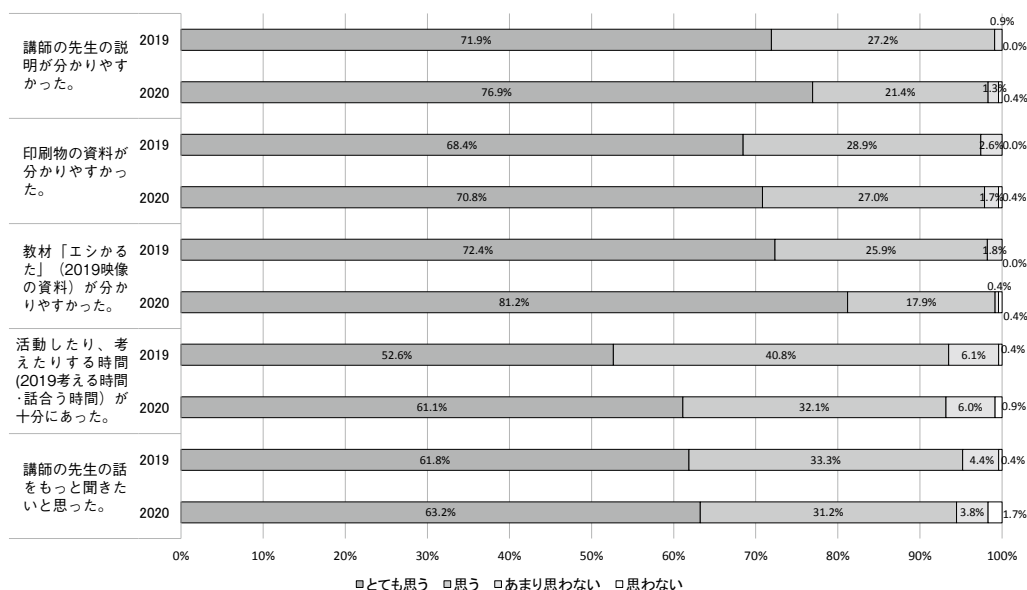


図2 2019年度と2020年度との授業に対する感想の比較

<p>え エコバック 忘れず持って 買い物へ</p> 	<p>つ 伝えよう 余剰食料 600万トン 年間</p> 	<p>み 密を避け 無駄な外出 控えよう</p> 
19人(8.2%) (8人、11人)	16人(6.9%) (9人、7人)	14人(6.0%) (6人、8人)
<p>た 助け合い 食料支援で 飢え克服へ</p> 	<p>ち 地産地消 応援しよう 地域復興</p> 	
11人(4.7%) (8人、3人)	11人(4.7%) (4人、7人)	

図3 生徒が選んだ最も気に入った「エシかるた」の札

3には(え)の札を選んだ理由・実践できそうなこと・他者への効果的な啓発方法の提案について示す。この札を選んだ理由では、2020年7月からレジ袋の有料化に伴いエコバックの利用が浸透したことをあげている。身近でできそうなことの項目においても、エコバックの持参をあげている。また、任意の記入項目として設定した効果的な啓発方法では、13人(68.4%)からの提案があり、ポスターを貼る、CMをつくる、インターネットを活用するなどがあげられた。特に「自分がエシカル消費を知らない人に教えるのも大切だけど、実際にやって見本を見せてあげる事もいいのかなと思った」という提案があり、自らすすんで積極的に問題解決に取り組もうとする意識の高まりがみられた。この結果は、学習指導要領に示された「実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。」のねらいに沿っていると考えられる。

表3 「エシかるた」(え)の札を選んだ理由・実践できそうなこと・他者への効果的な啓発方法の提案

2. 札を選んだ理由	3. 身近でできそうなこと	4. 効果的な啓発方法
親がつかるし最近必要にはじめてから。	レジ袋ではなくバックかエコバックをもっていこうと思います。	ネットで発信する。
エコバック大事故から。 忘れてしまうとレジ袋を使うことになり、エコバックを買った意味がなくなりそうだから	エコバックをもっていき、見えるところに置いたり、カバンの中から出来るだけ出さないようにする	ネットが発信する。
自分でも毎回出掛ける時にエコバックを持っていくから	出掛ける時はエコバックを忘れないようにする	フェアトレードについてのCMを作ってみる
最近、コンビニのレジ袋が有料になって、エコバックが必要になってきたから。	コンビニに行くときは、レジ袋を買わずにエコバックを持っていくようにする。	インターネットでもエシカル消費について発信する。
自分でもできそうだから	袋を買わないでエコバックを使う	テレビやSNSなどで呼びかける
今の時期にピッタリだから	忘れずにエコバックを持って買い物に行く事	エシカル消費についてのCMを作る
袋だどこかに捨てるとか置いていくとかあるから	エコバックを持つ	今みたいにかるた遊びを交えながら教えていったら効果的だと思います
自分の家族もエコバックをよく持っていて、大切なんだと感じているから。	もしエコバックがなくても、自分のバックに入りそうなら、なるべく袋をもらわないようにしたいと思った。	エシカル消費に関連したものがあるものやその商品のラベルなどにこれがエシカル消費につながっているものやわかるものを記入する。
エコバックを持っていくとお金もかからないし、地球にやさしくて、一番身近に感じたから	エコバックを持っていく	・家族にわかったことを話す・ネットを使う
エコものを買ったら環境にいいから。	家でも買い物に行くときにエコバックを持って出かけるようにしたいです。	
レジ袋をなるべく使わないようにするためにエコバックを買い物の際に持っていくことは大切だと思う。	出かけるときにはエコバックを常に持っていくこと	ポスターなどで多くの人に知ってもらう
今はレジ袋が有料化して海ゴミがなくなるから。	日常的にエコバックを持ち歩く。	
コンビニとかで、袋が有料化したのを忘れて総菜パンを手で持って帰ることになったことがあったから	エコバックを持っていく事	
最近、袋が有料になったから	買い物に行く時にエコバックを持っていく	身近に置く
今年からどこでもレジ袋が有料になったから	遊びに行く時またはお出かける時にエコバックを持ち歩くこと	目立つところにポスターを貼る
袋は有料化されてエコバックを使っている人が多いと思ったから	袋をたくさん買うのではなく、エコバックをしっかり持っていきごみを出さないようにする	
最近コンビニやスーパーで袋の有料化が進んでいるから	マイバック持参、どれだけ買わかわからないから常に3個ほどエコバック持ち歩く	今回教わったことを家族や友人に共有する(話す)
カルタの中で意味が一番意味がわかりやすかったから	買い物時、エコバックを忘れないように玄関に置いておく(絶対エコバック持参)	自分がエシカル消費を知らない人に教えるのも大切だけど、実際にやって見本を見せてあげる事もいいのかなと思った

4. 考 察

学生自身で「総合的な学習の時間」の授業をデザインし実際に中学校で実践し、この効果について、中学生のアンケート及びワークシートから省察した。「総合的な学習の時間」での学びは、情報の集め方、調べ方、まとめ方、報告や発表・討論の仕方、学び方やものの考え方の習得を重視し、主体的な学びを推進するとともに、各教科、道徳、特別活動のそれぞれで身に付けた知識や技能を生徒の中で総合化することがねらいとされている。授業で使用したテーマは、「一人ひとりができるエシカル消費行動について考えてみよう」としたことから、流通・経済の仕組み、食品ロスの問題、環境問題など、社会科や家庭科の幅広い知識が必要であり、消費を多方面から捉えることが求められる。中学生は、大学生が自作教材として用いた「エシかるた」から、エシカル消費に関する理解を深め、自分自身のためにできる行動及び他者に啓発できる活動の両面から考えることができた。このことは、2019年度の自由記述の回答率が15% (33人/229人) 程度であったのに対し、2020年度には約70%に増加したことから、授業を通して知識の総合化ができたのではないかと考えられる。

白井・三宅⁷⁾ (2019) は、大学1年生を対象としたアンケート調査結果から、学生が初等中等教育の「総合的な学習の時間」で身に付けた力をあまり活かしておらず、それぞれの科目は個々に考えられ関連させていく意識が希薄であると指摘した。今回、実践した中学校での「総合的な学習の時間」の授業は、実践した学生にとっても、かるたの読み札を考え授業を設計することで、今まで身に付けた知識が活かされ主体的な学びに繋がったのではないかと考えられる。

本実践について、中学生の自己評価からは肯定的な意見が多く見られた。一方、中学校の教員からは「カルタ取りをする中で、楽しくエシカル消費について学ぶことができた、楽しくエシカル消費について活動・具体例を知ることが出来た、『エシかるた』にはエシカル消費行動との関連度に応じたポイント制になっているなど工夫されていてとてもよかった、2年時の学習とも結びつけられ、よい時間だった」等の意見の他に、「カルタ取りが大きく印象に残りすぎて、『エシカル消費』についての学びをしたような気がしていないと思われる、カルタの札の解説や発表の時間をもっと充実させるとよいと思った」等の改善が指摘された。「総合的な学習の時間」の単元構想には生徒が興味関心を持つものは多くあるため、教師が意図して取り上げた一つの題材が生徒にとって新たな関心や疑問が生まれるものでなければならない。今回取り上げたエシカル消費は、生徒一人ひとりの関心がそれぞれ異なり、消費の範囲もエコマーク商品、リサイクル製品、持続可能な森林経営や漁業の認証商品といった「環境への配慮」、フェアトレード商品、寄付付きの商品といった「社会への配慮」、障害者支援につながる商品といった「人への配慮」に加え、地産地消や被災地産品の応援消費等、多岐にわたる。ここからまた新たな関心や疑問が生まれやすく、単元の題材としては適切であり、今後の活動の広がりが期待できる。

カルタの札の解説や発表の時間をもっと充実させることで、学びを社会に活かそうとする「学びに向かう力」の涵養につながるものと考えられる。そのためにも、①学習目標は学習目的が明確で、学習意欲が高まるよう身近なものにする、②生徒の実態 (学力、学習意欲、興味・関心など) を明確に把握する、③教材・教具は関連教科と連携した教材や教具を適切に準備する、④授業方法では生徒の興味・関心から始まる学習活動の連続が、探究的な学習活動となるよう

設計する、等の項目を改善していく必要がある。さらには今後の課題として、「総合的な学習の時間」では教科のような数値的な評価をしないため学習評価の在り方についても検討する必要があると考えている。

- ・令和2～3年度の名古屋女子大学教育・基盤研究助成費による研究である（交付番号0208）
- ・名古屋女子大学「ヒトを対象とする研究」の審査を受けた研究である（承認番号2020-5）
- ・本研究で実施した中学校での実践は、令和2年度卒業研究論文「中学生を対象としたエシカル消費の授業に関する一考察—『エシかるた』の作成を通して—」井島舞乃、伊藤万莉、井野公実可、中川結惟、舟橋郁伽にまとめられている。

引用・参考文献

- 1) 文部科学省、http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1383986.htm（2021.8閲覧）
- 2) 学習指導要領データベース、国立教育政策研究所：教育研究情報データベース、https://www.nier.go.jp/yoshioka/cofs_new/（2021.8閲覧）
- 3) 文部科学省、中学校学習指導要領（平成29年告知）解説・総合的な学習の時間編、東山書房、(2019)
- 4) 文部科学省、中学校学習指導要領（平成29年度告示）、(2019)
- 5) 三宅元子、白井靖敏、大学生の主体的な学修を促す「総合的な学習の時間」での学外授業実践、名古屋女子大学紀要67号 P85-94、(2021)
- 6) 多々納道子、伊藤圭子、実践的指導力を付ける家庭科教育法、大学教育出版 P150-161、(2018)
- 7) 白井靖敏、三宅元子、「総合的な学習の時間」と大学での主体的な学び、名古屋女子大学紀要66号 P141-150、(2019)

資料1 学習指導案

第3学年「総合的な学習の時間」学習指導案			
令和2年12月22日(水曜日) 第6時限			
1 単元名 持続可能な社会に向けたエシカル消費について考える			
2 単元目標			
(1) 消費生活を振り返り持続可能な社会・消費生活について考え、持続可能な社会の実現のために行動できる消費生活になることを意識する。			
本題材では、オーストラリアの「エシカル消費」を用いてエシカル消費について身近に感じ理解すること、また、エシカル消費は、持続可能な開発目標(SDGs)の17の目標のうち、13「気候変動に具体的な対策を」、「持続可能な消費・生産形態の確保」があげられている。そこで、2030年までに、人々が持続可能な開発および自然と調和した生活様式に関する目標を達成することを目指すことなどが盛り込まれている。エシカル消費は、この目標の達成にも通ずる消費行動である。			
(2) 本学等の生活は、持続可能な開発目標を用いてエシカル消費の1つであるフェアトレードについて学習し、学習に促す活動は継続的であることから、グループ活動で楽しみながら取り組むことで、生活への関心をもち、エシカル消費について学んだことが実践にも活かされる。より深い学びができるようにしたい。			
(3) 「エシカル」を通して、エシカル消費に関心を持ち、これからの自分の消費行動についてエシカル消費の観点から考え、生活との関わりを見つめ実践しようとする意識や態度を身に付けさせた。			
3 単元 目標			
(1) エシカル消費について知ろうとする。 (関心・意欲・態度)			
(2) 自分の生活で実践できるエシカル消費について考え、実行しようとする。 (工夫・創造)			
(3) エシカル消費について理解することができる。 (知識・理解)			
4 評価計画 (1) 評価項目 本時の評価名 「一人ひとりができるエシカル消費行動について考えてみよう」			
5 本時の評価			
(1) 目標 ○ エシカル消費に関心を持ち、自分の生活に活かそうとする。			
○ これからの自分の消費行動についてエシカル消費の観点から考え、生活との関わりを見つめ、実践しようとする意識や態度を身に付ける。 (工夫・創造)			
(2) 評価項目 (関心・意欲・態度)			
(3) 評価項目 (知識・理解)			
(3) 評価 ○ お互いが関心にならないように、1人ずつ選んで4人一組のグループを作り発表している。			
(3) 評価計画			
時間等	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 5	1 エシカル消費について学習し、本時の学習目標を確認する。	○今年度は「フェアトレードチョコレート」からエシカル消費を考える。	

	(1) 本時の学習目標を知る。	を思い出させる。 ○本時の学習目標を表示する。	○本時の学習目標に関心を持つことができたか。(関心)
展開 5 (10)	2. エシカル消費の目的は「持続可能な生産・消費形態の確保」に通じる活動であることを知る。	○パンフレットを提示しながら説明する。	○エシカル消費の目的や内容を理解したか。(関心)
展開 15 (25)	3. 「エシカル」のルールを知る。 4. 「エシカル」に動き回る。 (4) 選んだ札を取る。	○ルールを説明する。 前座のままで札をとる。 同時に札を取ったらじゃんけん決める。 ○札上2枚の札を取る。 ○札上2枚読み上げる。 ○少なくとも残り2枚の札を取るように指示する。	○積極的に動かすに動かしやすかったか。(関心)
展開 15 (40)	(2) 組内で最も取り札の枚数が多く人は早手し、クラス全体に枚数を発表する。 (3) 裏に書かれている数字を見つけて、最も点数の高い人は早手し、クラス全体に点数を発表する。	○組内で取り札の枚数が最も多い生徒に発表させる。(賞賛する) ○エシカル消費行動は、できることから始め、回数も重要であり、同時にその内容も重要であることを理解させる。 ○現在は、生活環境が変化し、いろいろな行動に制約はあるものの、持続可能な社会に向けて一人ひとりができるエシカル消費について考えさせる。 ○記入ができない生徒には、早手で発言し、記入を促す。	○これからの自分の消費行動についてエシカル消費の観点から考え、生活課題を見つけて実践しようとしているか。(工夫・創造)
まとめ 5 (45)	6. 本時のまとめをする。 (1) ワークシートの内容を発表する。 (2) ワークシートに感想等記入する。	○「エシカル」の取り札の枚数が最も多かった生徒、得点の最も高かった生徒を指名し発表を促す。 一人ひとりがこれからの生活で実践できるエシカル消費についてまとめさせる。	○エシカル消費に関心を持ち、自分の生活に活かそうとしているか。(関心・ワークシート)

資料2 ワークシート

ワークシート

3年()組()番 氏名()

1. 最も楽しかった(気に入った)「エシカル」の札を上記書き写して下さい。

2. なぜその札を選びましたか。理由を書いてください。

3. 選んだ札に関連して、身近でできそうなことは何かありますか。書いて下さい。

4. <発想課題> 提案してみましょう
エシカル消費もこれから多くの人に広めていくために効果的だと思うことほとんどありませんか。提案してみてください。

5. 授業についての感想や気づいたことを自由に書いてください。